



©2021 Masahiro Hayashi

2021年12月に行ったセミナー「融合って何だろう?」で制作されたドローイング。

「さまざまな立場の人が融合して課題解決するとは?」「オープンイノベーション創出のために必要なことは?」という問いに対し、科学者・起業家・学生・市民活動家など様々な立場の方に語っていただいた内容を、ドローイングとして可視化しました。



チャレンジフィールド北海道
CHALLENGE FIELD HOKKAIDO

ロゴに込めた想い／チャレンジのCとフィールドのFで「CF」の形状をモチーフとしました。自然豊かな北海道で、これから育っていくあらゆるイノベーションを、力強く芽吹く「葉」として、同時に、大地からの飛躍を表す「翼」を隠喩するイメージとして託しました。

■ チャレンジフィールド北海道公式サイト
<https://challenge-field-hokkaido.jp/>



■ チャレンジフィールド北海道  note
<https://note.com/cfhokkaido/>



本事業に関するお問い合わせは

NOASTEC

公益財団法人 北海道科学技術総合振興センター（ノーステック財団）
事業戦略統括部
TEL:011-792-6151 E-mail:yugo@noastec.jp



第4版 2022年7月7日



チャレンジフィールド
北海道

CHALLENGE FIELD HOKKAIDO

JNEXUS
NEXT University-Society
open innovation initiative



産学の連携から『融合』へ。 ～魅力ある地域づくりのために～

「チャレンジフィールド北海道」は、
経済産業省の「産学融合拠点創出事業(J-NEXUS)」として、
2020年にスタートしました。
これは、社会や地域のさまざまな課題に対し、
大学や自治体、企業などがもつ「知」や「つながり」を生かして
北海道の経済や暮らしをもっと豊かなものにしていく取り組みです。

Mission

【私たちのミッション】

- Mission 1 「大学のシーズ」起点のプロジェクト化
- Mission 2 「地域課題」起点のプロジェクト化
- Mission 3 共創基盤のデザイン



ごあいさつ

北海道の明るい未来を語り合い、人も組織も
地域もつなげて、チャレンジの機会を沢山つくりたい。

本事業も3年目に入りました。掲げためざす姿に近づくべく、道内各地
を訪問し多くの方々とお話しさせていただきました。嬉しいことに、セ
クターを問わず同じ思いを持った方々が沢山いらっしゃることも認識
できました。有志が集まり相互に支援しあえば一人ではできないこ
とも実現できます。我々は皆さんと一緒に汗
をかき、アイデアの実現を後押しする信頼さ
れるおせっかい役をめざしています。

総括エリアコーディネーター
山田 真治



インタラクティブな関係性、
イノベーション創出で新しい社会をめざす。

現在、北海道内の大学・国研が力を結集して技術シーズを持ち寄り、
そして市場のニーズをとらえ、プロジェクトを展開しています。ここには先
の未来を見据え何をこの北海道に残し活用していくのか、技術シーズ
と市場ニーズのインタラクティブな統合からイノベーションが期待され
ています。そのためにも大学・国研は多くの企
業や自治体とコミュニケーションを活発化させ、
新しい社会をめざし挑戦していきます。

副総括エリアコーディネーター
北川 泰治郎



私たちがみなさんの伴走をします。
大学などの上級エリアコーディネーターと連携し、活動しています。

事業実施責任者 工藤 昌史

①長く、道内の研究者や企業の皆様への
研究開発支援業務やバイオ企業の開発
支援・ネットワークづくりを行う。稚内市出
身。②中島みゆき、王貞治、吉田松陰



部署長 三井 祐介

①生物学、分類学専門。都内出版社で科
学雑誌の編集に従事。札幌にUターン、
行政で地域支援・産業支援に携わり現職。
札幌市出身。②海外ドラマ、アニメ



部署長 住吉 武則

①道内の地域金融機関、独立行政法人、
公益財団法人において、地域産業支援に
取り組む。横丹町出身。②子供たちとその
未来について考えること



チーフコーディネーター 扇谷 悟

①前職は産総研北海道センター。研究分
野はいわゆるバイオ、食品で、医療機器開
発予算にも関わる。深川市出身。②旅行、
おいしいものを食べに行くこと



コーディネーター 稲葉 慶一郎

①事業創生とCVC、事業化アクセラレー
ション。卒の様な英断力で獣道をも颯爽
と登る。②道産子妻・娘とシュナウザー、エ
ルムの鐘交響楽団トランペット、恵迪寮



コーディネーター 和田 順子

①都内通信会社で広報・プロモーション
に従事。道内移住、転勤生活ののち、食
育・フードロス関連で起業。前橋市出身。
②世界遺産、食べ歩き、お笑い



上級エリアコーディネーターの紹介は挟み込み資料をご覧ください。

Mission 1

「大学のシーズ」起点のプロジェクト化

詳しくは挟み込み資料をご覧ください。

大学などの研究成果を社会実装するための支援や新たな取り組みの立ち上げを、
北海道内各地の上級エリアコーディネーターと連携して進めます。

1 産業競争力

- 産業技術による北海道の農林水産業の効率化推進
- 高付加価値鋼材の
資源循環型サステナブル未来素材供給基地形成
- 生産空間の維持形成に資する物流基盤整備
- パウダーメタラジとAM技術による
新素材創製グローバル拠点構想

2 社会インフラ

- SAVS (Smart Access Vehicle Service) の
地域展開とサービス連携
- 地域の再生可能・自立型エネルギーシステムの構築
- 地方都市圏への
MaaS (Mobility as a Service) の社会実装
- 地域エネルギーによるカーボンニュートラルな
食料生産コミュニティの形成

3 食資源

- ビッグファーマーズと共創する植物由来資源利用活性化
- 農・畜・水産融合型資源活用システムの構築
- 北海道天然資源の利活用による新産業の構築
- 脱炭素を実現するサステナブル醸造研究教育拠点

4 未来産業

- 北海道発 航空宇宙システム実証拠点の形成
- 札幌・北海道スタートアップ・エコシステム推進協議会との連携
- 宇宙ビジネスの成長産業化への取組、産学マッチング

5 市民とコミュニティ

- こころとカラダのライフデザイン

Mission 2

「地域課題」起点のプロジェクト化

北海道内の産業や地域の課題を解決する
ため、課題の発掘から技術開発、ビジネスモ
デルづくり、体制づくりなどの支援を行います。

Mission 3

共創基盤のデザイン

事業終了後も、社会・地域の課題解決やさ
まざまなチャレンジを支援していくための仕
組みづくりをしています。

